

## 第2学年 社会科学学習指導案

令和5年12月15日(金) 指導者 清水 暁子  
【授業】13:30~14:20 会場 2年3組 (3階)  
【協議会】14:30~15:20 会場 マルチ教室 (3階)

1 単元名 日本の諸地域 (中部地方)

### 2 単元について

#### (1) 単元設定の趣旨

##### ①学習指導要領における位置付け

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の地理的分野の大項目「C 日本の様々な地域」、中項目「(3) 日本の諸地域」にあたる。中でも中部地方について、「③ 産業を中核とした考察の仕方」を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることをねらいとしている。つまり、中部地方の、ア(ア)「地域的特色や地域の課題」や、③の考察の仕方でも取り上げた、ア(イ)「特色ある事象とそれに関連する他の事象や、そこで生ずる課題」を理解したり、③で扱う中核となる事象の成立条件を、イ(ア)「地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現」したりすることである。

##### ②中部地方について

中部地方は他の地域と比較して日本海側から太平洋側までの距離も長く、南北にも長い。さらに、内陸部と沿岸部の標高差が大きいため、東海・中央高地・北陸の3つに区分された地域では、気候とそれに基づく地域的特色が大きく異なるという特徴をもつ。産業を中核として考察すると、名古屋大都市圏を含む東海では、中京工業地帯が発展して自動車などの輸送機械工業が盛んであり、中央高地では涼しい気候を生かした高原野菜や果樹の栽培がさかんである。雪の多い北陸では、冬場に屋内で作業できる工芸品の生産から現在は様々な地場産業が発展するなど、中部地方といってもその地域的特色をひとくくりに説明することは難しい。そこで、本時では、北陸の地場産業、とりわけ伝統産業に着目して学習課題について追究する。北陸は他の地域と比べても生徒にとって身近であり、より自分事として地域の課題と向き合うことができるのではないかと考えた。

##### ③本時について

本時では北陸の伝統産業を題材に、「なぜ、観光資源としても著名な金沢の伝統産業は存続の危機に瀕しているのだろうか。」という学習課題を設定した。北陸新幹線の開業以降、東京とのアクセスが良く、観光地としても一層注目を浴びてきた金沢であるが、市によると金沢の伝統工芸品産業従事者数は2008年の3,019人から2018年では2,300人と、10年間で約700人減少したという。日本全体で人口減少や少子高齢化が進み、様々な分野での後継者不足が叫ばれる中、伝統産業の分野はその存続がより一層厳しい状況に置かれていると言える。伝統産業が抱える課題について、生徒自身の消費者という立場からだけでなく、生産者の立場からも考察することで、金沢だけでなく富山や他の地域にも共通に見られる課題であることを多角的に捉えさせたい。そして、伝統産業の課題を構造的に理解するだけでなく、伝統産業の意義を今一度問い直す機会につなげたい。

#### (2) 生徒の実態

生徒はこれまで、第2学年の地理的分野においては、「なぜ、真冬の北海道でマンゴーを生産しても利益が得られるのだろうか。」といった「なぜ」を問うことで概念的知識の形成を促す学習課題や、「(沖縄の) 仮想町として、町外からの米軍施設移転に賛成か、反対か。」といった価値的知識の形成を促す学習課題について、討論を通して追究活動を行ってきた。また、第1学年の校外学習で金

沢へ、第2学年の修学旅行で京都へ行って実際に伝統工芸を体験してきたことから、伝統産業に対する興味関心が高く、ポジティブな印象をもっている生徒が多いことが考えられる。しかし、現状の生徒の興味関心は消費者（観光客）の立場からくるものであり、伝統産業が抱える課題を生産者の立場から考えたり、構造的に捉えようとしたりするまでには至っていない。

### (3) 指導の構え

本校の研究主題である「主体性の高まりを目指す課題学習」と関連し、生徒が進んで追究したくなるような学習課題を設定した。

#### ①「深い学び」を実現する単元構成

中部地方を、産業を中核として考察していく中で、東海・中央高地・北陸のいずれの地域においても日本の少子高齢化や人口減少に伴う労働力不足という課題に直面していることに気付かせる単元構成とした。不足する労働力に対して、自動車工業のさかんな東海の愛知県は東京を除いて地方の中で外国人労働者が最も多く、果樹栽培のさかんな中央高地の長野県では公務員の副業の動きが始まっていることを理解する。様々な産業で労働力が不足し、何かしらの対策が講じられる中で、他の産業と伝統産業との違いや伝統産業そのものの意義について考えさせる展開とした。

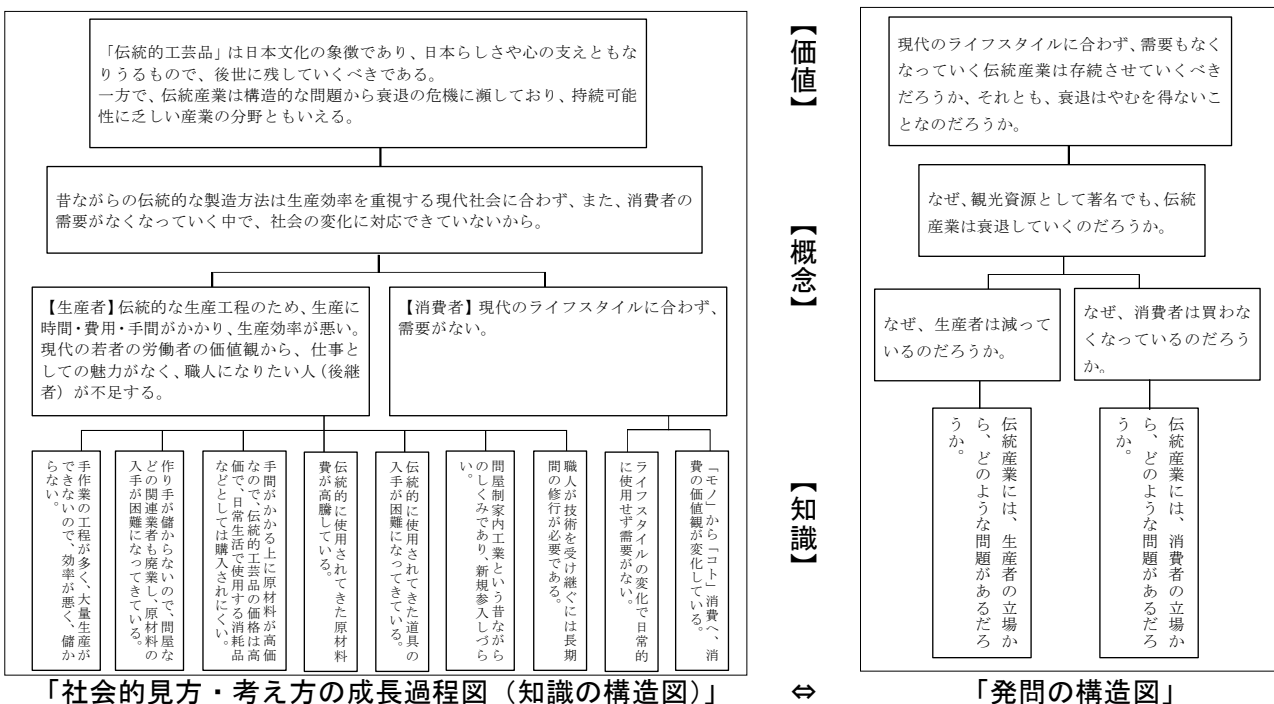
#### ②「見方・考え方」を働かせる「問い」

本単元の中では、「なぜ、東海では自動車工業が発達しているのだろうか。」という学習課題に対して、地形や気候などの地理的要因や歴史的背景、他地域と結び付き、人口構成などに着目して多面的に追究する活動を行った。本時では、生産者と消費者の立場を示して「なぜ、観光資源としても著名な金沢の伝統産業は存続の危機に瀕しているのだろうか。」という学習課題を多角的に追究する。その中で、伝統産業に関わる人や原材料、消費地が「どこに位置するか」といった地理的な見方を働かせる問いや、他地域と「どのような関係をもっているか」といった空間的相互依存作用などに着目させる地理的な考え方を働かせる問いを提示していく。

### 3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

本単元で「深い学び」が実現している状態を、次の図に示した。

#### ◆「知識の構造図と発問の構造図」（本時を中心に「伝統産業」に関連する部分のみ）



#### 4 単元の目標

- 中部地方の地域的特色や地域の課題を理解することができる。また、産業を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解することができる。 (知識及び技能)
- 中部地方の産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 中部地方の地理的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

#### 5 全体計画 (全9時間)

- 第1次 中部地方の自然環境にはどのような特色が見られるのだろうか。 . . . 1時間
  - ・ 中部地方では、地形や気候にどのような特色が見られるのだろうか。
  - ・ 険しい山地や山脈によって都市部と隔絶された中部地方の山間部では、どのようにして地域社会を維持しているのだろうか。－富山県、長野県の僻地を例に－
- 第2次 なぜ、東海では自動車工業が発達しているのだろうか。 . . . 2時間
  - ・ 東海では自然環境や交通網を生かして、他にどのような産業が発達しているのだろうか。
- 第3次 なぜ、中央高地では高原野菜の生産や果樹栽培がさかんなのだろうか。 . . . 1時間
- 第4次 なぜ、雪の多い北陸で地場産業が発達してきたのだろうか。 . . . 1時間
- 第5次 なぜ、観光資源としても著名な金沢の伝統産業は存続の危機に瀕しているのだろうか。 . . . 2時間 (本時)
- 第6次 伝統産業は存続させていくべきか、それとも衰退はやむを得ないことなのだろうか。 . . . 2時間

過程	教師による発問・指示	期待される生徒の反応や活動 (獲得される知識・概念)
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部地方では、地形や気候にどのような特色が見られるのだろうか。</li> <li>・ 険しい山地や山脈によって都市部と隔絶された中部地方の山間部では、どのようにして地域社会を維持しているのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太平洋に面した東海は夏から秋にかけて降水量が多く冬は温暖である。内陸で標高の高い中央高地は1年を通して降水量が少なく、冬の寒さが厳しい。日本海に面した北陸は冬の季節風の影響で雪が多く、世界有数の豪雪地帯である。</li> <li>・ 全国的に少子化による小中学校の統廃合が進む中、富山県や長野県の僻地にある小中学校では、山村留学によって都市部からの期限付き留学生を受け入れることで生徒数を維持している。学校行事はもちろん、地域の行事にも参加し、伝統を維持している。</li> <li>・ 富山県や長野県の僻地にある小中学校では、小規模校どうしをICT機器でつないで授業を行う取り組みが行われている。</li> </ul>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ、東海では自動車工業が発達しているのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名古屋大都市圏を中心に人口が集中しているので労働力を確保しやすい。交通網の発達から東京、大阪などの他の大都市圏との結び付きが強く、市場に近い。また、愛知県は東京を除いて、地方の中で最も外国人労働者の人数が多い。日本人以外でも労働力を補っている。</li> <li>・ 太平洋に面していて石油化学コンビナートが発達しており、名古屋港などから国内外に商品を輸送</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海では自然環境や交通網を生かして、他にどのような産業が発達しているのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>したり原材料を輸入したりするのに便利である。</li> <li>広く平野が広がっており、大都市郊外に工業用地を確保できる。</li> <li>戦前盛んだった繊維工業のノウハウを自動車生産に生かすことができた。</li> <li>東海の温暖な気候や水はけのよい台地を生かして、茶やみかんの栽培が盛んである。</li> <li>陶磁器産地のノウハウを生かしてファインセラミックス産業など新たな研究開発を行っている。</li> <li>都市部向けに野菜や花を栽培する園芸農業や、ビニールハウスなどを用いた施設園芸農業が盛んである。</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、中央高地では高原野菜の生産や果樹栽培がさかんなのだろうか。</li> <li>中央高地では、他にどのような産業が発達しているのだろうか。</li> <li>中央高地の産業にはどのような課題があるのだろうか。また、どのような対策を行っているのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田に適さない扇状地の地形を生かして、高原野菜や果樹栽培を行ってきた。また、涼しい気候を生かした高原野菜の栽培が盛んである。</li> <li>衰退した製糸業から精密機械工業にシフトし、交通網の発達とともに電気機械工業の工場が進出するようになった。</li> <li>農業での深刻な人手不足を補うため、長野県では地方公務員が自治体の許可を得て休日に農業を副業として行う動きが見られる。</li> </ul>
第4次	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、雪の多い北陸で地場産業が発達してきたのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな雪解け水や平野に恵まれた地域では米の単作を行っており、銘柄米として人気の商品もある。</li> <li>農業のできない冬の期間に、安定して収入を得られ、屋内で作業できる工芸品の生産が副業として行われてきた。</li> <li>副業の技術を生かして現在では地場産業が発展している。</li> <li>加賀藩の文化政策のもと、優れた技術を持つ職人が集まったり保護されたりして美術品や工芸品が生み出された。</li> </ul>
第5次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、観光資源としても著名な金沢の伝統工芸は存続の危機に瀕しているのだろうか。</li> <li>現代のライフスタイルに合わず、需要もなくなっていく伝統産業は存続させていくべきだろうか、それとも、衰退はやむを得ないことなのだろうか。</li> </ul>	(省略)
第6次	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統産業は存続させていくべきだろうか、それとも、衰退はやむを得ないことなのだろうか。</li> <li>伝統産業は存続させていくべきかどうかを考える上で、大切なこと(視点)は何だろうか。</li> </ul>	(省略)

## 6 本時の学習(全7/9時間)

### (1) 指導目標

- 「金沢箔」などを例に、伝統産業が衰退する理由を、生産者や消費者の立場をもとに、生産にかかる費用や手間の負担、現代のライフスタイルに合わないといった問題点を踏まえて、多面的・多角的に説明させる。(思考・判断・表現)

(2) 展開

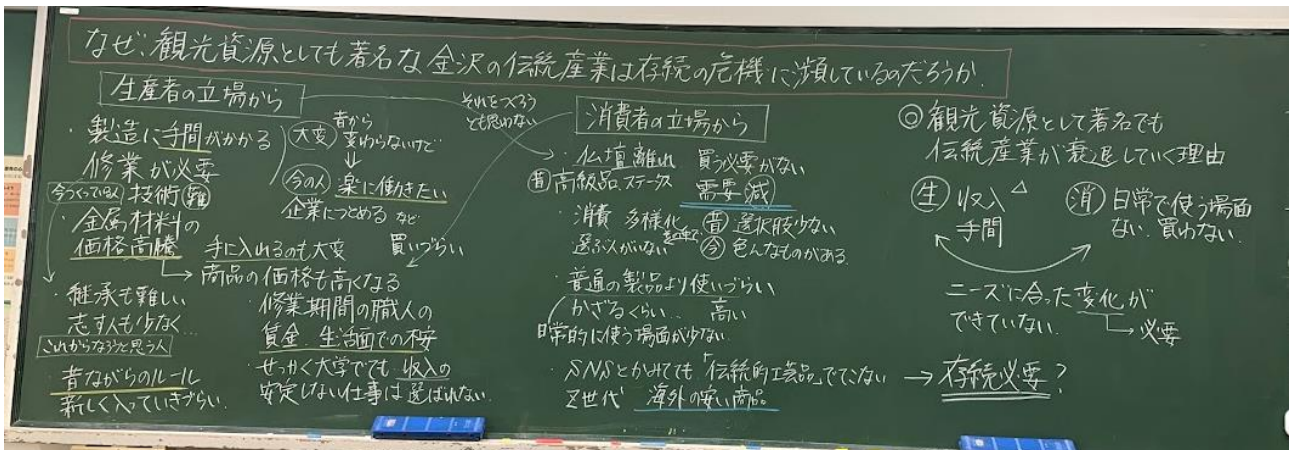
学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>・北陸新幹線開業以降、観光消費額は増加しているのに、金沢の伝統工芸従事者は減少していることを想起させる。</p>
<p>なぜ、観光資源としても著名な金沢の伝統産業は存続の危機に瀕しているのだろうか。</p>	
<p>2 班で意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人班で、学習課題に対して考えたことを一人ずつ説明する。</li> </ul> <p>3 全体で意見交換する。</p> <p><b>【生産者の立場から】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手作業の工程が多く、大量生産ができないので、効率が悪く、儲からない。</li> <li>・手間がかかる上に原材料が高価なので、伝統的工芸品の価格は高価で、日常生活で使用する消耗品などとしては購入されにくい。</li> <li>・作り手が儲からないので、問屋などの関連業者も廃業し、原材料の入手が困難に。</li> <li>・伝統的に使用されてきた原材料費が高騰している。金箔や高岡銅器など、とくに金属原料の価格は国際情勢にも左右される。</li> <li>・伝統的に使用されてきた道具の入手が困難に。(例)高岡銅器を作る際に使用する「ネゴボウキ」(手刈りした稲から作る)はコンバインの普及によって入手しづらくなった。</li> <li>・問屋制家内工業という昔ながらのしくみであり、新規参入しづらい。</li> <li>・職人が技術を受け継ぐには長期間の修行が必要であり、現代の若者の価値観から仕事としての魅力がなく、職人になりたい人(後継者)も不足する。</li> </ul> <p><b>【消費者の立場から】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルの変化で日常的に使用しない。需要がない。(例)金箔用途の大部分を占めるのが仏壇仏具での使用であるが、そもそも床の間や仏壇がない家が多くなっている。(高岡銅器も同じ)</li> <li>・仏壇仏具の中国生産も拡大している。</li> <li>・「モノ」から「コト」消費へ、消費の価値観も変化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人目以降に発表する人は、前の人の発言を踏まえた発表となるよう助言する。</li> <li>・「生産者の立場」⇒「消費者の立場」の順に挙手で発言を促す。</li> <li>・生産者の立場から見えてくる問題(生産者の苦しみ)や消費者の立場から見えてくる問題(消費者ニーズの変化)を板書上で有機的につなげ、整理していく。</li> <li>・日本の伝統や文化の継承に携わるという仕事のやりがいがある一方で、生産者に突きつけられている問題があるということに気付かせ、活動5の伝統産業の存続の意義に疑問を呈する展開につながるようにする。</li> </ul>

<p>4 学習課題を踏まえてまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源としては著名でも伝統産業が衰退する理由を生産者や消費者の立場から一般化する。</li> </ul> <p>【生産者】伝統的な生産工程のため、生産に時間・費用・手間がかかり、生産効率が悪い。仕事としての魅力が減少。</p> <p>【消費者】現代のライフスタイルに合わない。需要がない。</p>	<p>【思考・判断・表現】（発言・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「金沢箔」などを例に、伝統産業が衰退する理由を、生産者や消費者の立場をもとに、生産にかかる費用や手間の負担、現代のライフスタイルに合わないといった問題点を踏まえて、多面的・多角的に説明させる。</li> </ul>
<p>5 新たな問いについて考える。（次時の課題提示）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産効率が悪く、現代のライフスタイルに合わなくて需要もなくなっていく伝統産業は存続させていくべきだろうか、それとも、衰退はやむを得ないことなのだろうか、問いに対して考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を踏まえて、伝統産業の存続の意義を問い直す。</li> </ul>

## 7 授業観察の視点

- ・生産者や消費者といった立場を示して学習課題を追究させたことは、伝統産業が衰退する理由を多面的・多角的に説明させる上で適切であったか。
- ・伝統産業の意義自体を問い直す終末の発問は、価値的知識の形成を促す単元構成の一環として適切であったか。

## 8 板書計画（他クラスでの実践）



## 〔主な参考文献〕

### 【方法論】

- ・ 岡崎誠司『社会科の授業改善 1 見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年
- ・ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978年
- ・ 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版、2000年

### 【内容論】

- ・ 清水康史『石川のトリセツ』昭文社、2021年
- ・ 安嶋是晴『輪島漆器からみる伝統産業の衰退と発展』見洋書房、2020年
- ・ 加藤明『金沢箔の変遷—断切技術出現過程を中心とした予備的考察—』『北陸地域研究』1(1)、2009、pp.44-55.
- ・ 石川県「統計からみた石川県の観光（令和3年度）」2021年
- ・ 金沢市「金沢 KOGEI アクションプラン—金沢の工芸の未来に向けて—」2020年
- ・ 経済産業省「新しい市場ニーズへの対応」2022年
- ・ 文化庁「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業（令和元年度）実施業務報告書」 など